

2025 年度 第 2 回 鳳雛ゼミを開催しました！

地域を学びのフィールドに！「復興」をテーマにした課外学習

能登高校で毎年実施している「鳳雛（ほうすう）ゼミ」は、能登高校・能登高校魅力化プロジェクトが協力し、地域をフィールドとして学ぶ特色ある課外学習です。普段の教科学習とは異なり、生徒と地域住民が一体となり、毎年設定されるテーマをもとに探究的な学びを深めていきます。町長や役場職員をはじめ、地域で活躍する多様な大人たちと出会うことで、生徒たちが地域課題を自分ごととして捉え、未来を主体的に考える場となっています。

2025 年度は、能登町にとって重要な課題である「復興」を共通テーマに掲げ、復興のプロセスとその先にある未来像を描くことを目指して活動を展開しています。

第 2 回 鳳雛ゼミ「復興×農業」能登米の新たな価値を探る

11 月 1 日（土）の第 2 回ゼミでは、奥能登の基幹産業である農業に焦点を当て「復興×農業」をテーマに開催しました。輪島市町野町で農業を営む「のと栄能ファーム」の山下祐介さんをゲストに迎え、復興に向けて多角的に活動する立場からお話を伺いました。

山下さんの講義では、奥能登が抱える米農業の構造的課題に加え、災害が農地や生産活動に与えた被害の大きさについて、現場ならではの生の声で学ぶことができました。生徒たちは、困難を抱えながらも前へ進む地域の姿に触れ、「より魅力的な産業へと再生させるには何が必要か」を真剣に考える時間となりました。

後半のワークショップでは、学んだ内容を踏まえ「能登のお米を使った商品開発」をテーマにグループごとに企画づくりを実施。「米粉を使ったグルテンフリーパスタ」や、見た目の美しさと高級感を意識した「能登の宝石（米粉マカロン）」など、能登米の新たな価値を引き出すアイデアが多数生まれました。高校生ならではの柔軟な発想が、能登の農業の未来に新たな可能性を感じさせる、有意義な時間となりました。



総合的な探究の時間 中間相談会を開催

11月4日（火）、能登高校にて「総合的な探究の時間 中間相談会」が開催されました。1・2年生の探究活動チーム全27チームが参加し、これまでの活動の成果と課題を共有するとともに、地域の大人たちや先生方と対話を重ねました。

今回行われた「中間相談会」は、生徒たちの探究をさらに前へ進めるための大切なステップです。生徒たちは、自分たちの活動がどこまで進んでいるのか、またどんなところで悩んでいるのかを発表し、外部アドバイザーや仲間の生徒、教員から様々なアドバイスを受けました。また、対話を通して自分たちの言葉で考え、それぞれの探究の次のステップについて考えました。

次回以降の授業では、各チームがそれぞれの探究活動に戻ります。今回得た新たな気づきを持って、さらに探究が深まることを期待しています。

大阪府立豊中高校能勢分校の皆さんが能登町を訪問しました

11月1日から3日にかけて、大阪府立豊中高校能勢分校の生徒2名と教員1名が、能登半島地震後の地域の現状を知りたいと能登町を訪問しました。期間中のプログラムには、能登高校魅力化プロジェクトのスタッフが同行し、現地案内や交流のサポートを行いました。

初日の11月1日には、能登高校が実施する「鳳雛ゼミ」に参加。地震や豪雨によって被害を受けた地域の現状を学び、能登高校の生徒たちとも活発に交流しました。2日目は、能登高校生と共にボランティア活動に参加。被災した古民家をシェアハウスとして再生させる取り組みの一環として、カビ取りや消毒作業などを行いました。長く放置されていた室内でしたが、高校生たちの力で見違えるほどきれいになりました。その夜には宿で能登高校の生徒との意見交換会を実施。被災後の能登の課題、外部発信の方法、復興のあり方など、真剣な議論が交わされる一方で、高校生らしい和やかな交流も見られました。最終日の11月3日には、輪島市町野町など被害の大きかった地域を視察。さらに能登町白丸では語り部の方から被災体験を聞き、復興へ向かう地域の思いを直接感じてもらいました。

今回の交流をきっかけに、豊中高校能勢分校と能登高校の新たな復興企画が生まれる可能性もあります。今後の展開にご期待ください。



お知らせ

まちなか鳳雛塾では、週1回程度を目安として、中学生対象の自習開放日（無料）を設けています。今月の中学生向け自習解放日は12/8（月）12/15（月）です。